

「国際交流きらめき阿蘇キャンプ」事業報告書

事業推進室長 小宮広明

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 熊本県内の大学に在学している留学生と日本人学生が交流できる場を提供することにより、国際社会に向けた学生の視野を広げるとともに、相互の異文化理解と交流を図る。また、持続可能な共生社会の実現に貢献し得る態度を養うとともにグローバルな視点を備えた次世代リーダーの育成を図る。
- (2) 期 日 平成29年11月11日（土）～11月12日（日） 【1泊2日】
※事前説明会：平成29年11月7日（火）
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家、草千里ヶ浜、白川水源
- (4) 参加者 98名（日本人学生：40名、留学生：58名）
- (5) 担当職員 小宮広明（事業推進室長） 山本正明（事業支援室長）
萱野太一（事業推進係員） 橋本抄織（事業推進事務補佐員）
- (6) 内 容 1日目：草千里ヶ浜散策、クラフト活動、スポーツ活動、交流会
2日目：野外調理（ピザづくり）、白川水源見学

2 成果と課題

- (1) 成 果
 - 日本人学生の感想には、「壁のない交流ができたと思います。」「たくさんの留学生の方とふれ合うことができ、文化の違いも学ぶことができました。」「英語で会話する場面もあり、英語でのコミュニケーション能力を向上させるよい機会になりました。」などの感想が見られた。今回のキャンプが参加者にとって有意義な時間になるとともに、国際交流の第一歩を踏み出す良い機会となっていたことが伺えた。
 - 熊本大学「国際交流サークル C3」の学生とともに企画運営を行うことで日本人学生を主体とした事業を展開することができた。また、日本人学生の協力のもと参加留学生に対して事前説明会を実施することができ、食事や入浴、その他生活面において留学生の理解を得るとともに当日の事業運営もスムーズに行うことができた。
- (2) 課 題
 - 例年参加している日本人学生の中には、これまでとは違うプログラムを行ってみたいという感想もあり、例年参加している学生もいることを踏まえたプログラム構成が必要である。
 - 交流会では、花火を留学生とともにすることがメインとなり、積極的に留学生とコミュニケーションがとれない日本人学生も見られた。交流会にレクリエーションなどを取り入れ、活発に交流が図られるように工夫する必要がある。

3 事業の様子



事前説明会



クラフト活動



タベのつどい



交流会



石窯ピザづくり①



石窯ピザづくり②



白川水源見学



閉会式